

# 社会資本総合整備計画(第1回変更)

さかい きゅう こう しゅう へん ち く  
堺旧港周辺地区における海辺文化・賑わいのさいこうの再興

令和3年1月

おお さか ふ さかい し  
大阪府堺市

社会資本総合整備計画

令和3年1月29日

計画の名称	堺旧港周辺地区における海辺文化・賑わいの再興										重点配分対象の該当																							
計画の期間	平成30年度～令和4年度(5年間)			交付対象	堺市																													
計画の目標	<p>&lt;大目標&gt; 都心での海辺文化・賑わいの再興</p> <p>目標1：歴史・文化資源が豊富な堺旧港に隣接している特性を活かし、多くの市民・来訪者が海辺で憩い、海を眺めることができる非日常的な交流空間を形成する。</p> <p>目標2：都心地域内での海辺の立地特性を活かし、民間事業者による商業機能の導入による魅力的な賑わい空間を創出する。</p> <p>目標3：地区内の回遊性を高め、市民・来訪者が海を眺めながら、快適で安全に散策できるパブリックアクセスの充実に図る。</p>																																	
計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適で安全なパブリックアクセスの充実に効果の発現として親水性護岸の利用者数アップにつながる。</li> <li>・交流空間・賑わい空間の形成による効果の発現として“堺旧港”の認知度、魅力度のアップにつながる</li> <li>・南海本線堺駅から、本地区へのアクセス性を改善し、旧堺港や大浜公園等への来訪者が増加することにより、賑わい空間の形成につながる。</li> </ul>																																	
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H30当初)</th> <th>中間目標値 (-)</th> <th>最終目標値 (R4末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>親水性護岸の利用者数(人/年) (当初現況値は平成28年度実績値)</td> <td>16,425</td> <td>-</td> <td>58,760</td> <td></td> </tr> <tr> <td>堺旧港認知度・魅力度アンケート(%) (当初現況値は平成29年度実績値)</td> <td>27</td> <td>-</td> <td>50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1年間の南海本線堺駅の乗降客数のうち、定期利用を除いた数(千人/年) (当初現況値は平成27年度実績値)</td> <td>5,978</td> <td>-</td> <td>7,174</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (-)	最終目標値 (R4末)	親水性護岸の利用者数(人/年) (当初現況値は平成28年度実績値)	16,425	-	58,760		堺旧港認知度・魅力度アンケート(%) (当初現況値は平成29年度実績値)	27	-	50		1年間の南海本線堺駅の乗降客数のうち、定期利用を除いた数(千人/年) (当初現況値は平成27年度実績値)	5,978	-	7,174	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																														
	当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (-)	最終目標値 (R4末)																															
親水性護岸の利用者数(人/年) (当初現況値は平成28年度実績値)	16,425	-	58,760																															
堺旧港認知度・魅力度アンケート(%) (当初現況値は平成29年度実績値)	27	-	50																															
1年間の南海本線堺駅の乗降客数のうち、定期利用を除いた数(千人/年) (当初現況値は平成27年度実績値)	5,978	-	7,174																															
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	849.9百万円	A	849.9百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	○%																						
交付対象事業																																		
A 基幹事業																																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																	
									H30	R1	R2	R3	R4																					
A-1	都市再生	一般	堺市	直接	堺市	堺旧港周辺地区都市再生整備計画事業	A=約34ha	堺市						849.9	-	-																		
									合計																									
B 関連社会資本整備事業(該当なし)																																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																	
									H30	H31	H32	H33	H34																					
									合計																									
C 効果促進事業(該当なし)																																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考																			
									H30	H31	H32	H33	H34																					
									合計																									
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業(該当なし)																																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考																			
									H30	H31	H32	H33	H34																					
									合計																									

交付金の執行状況

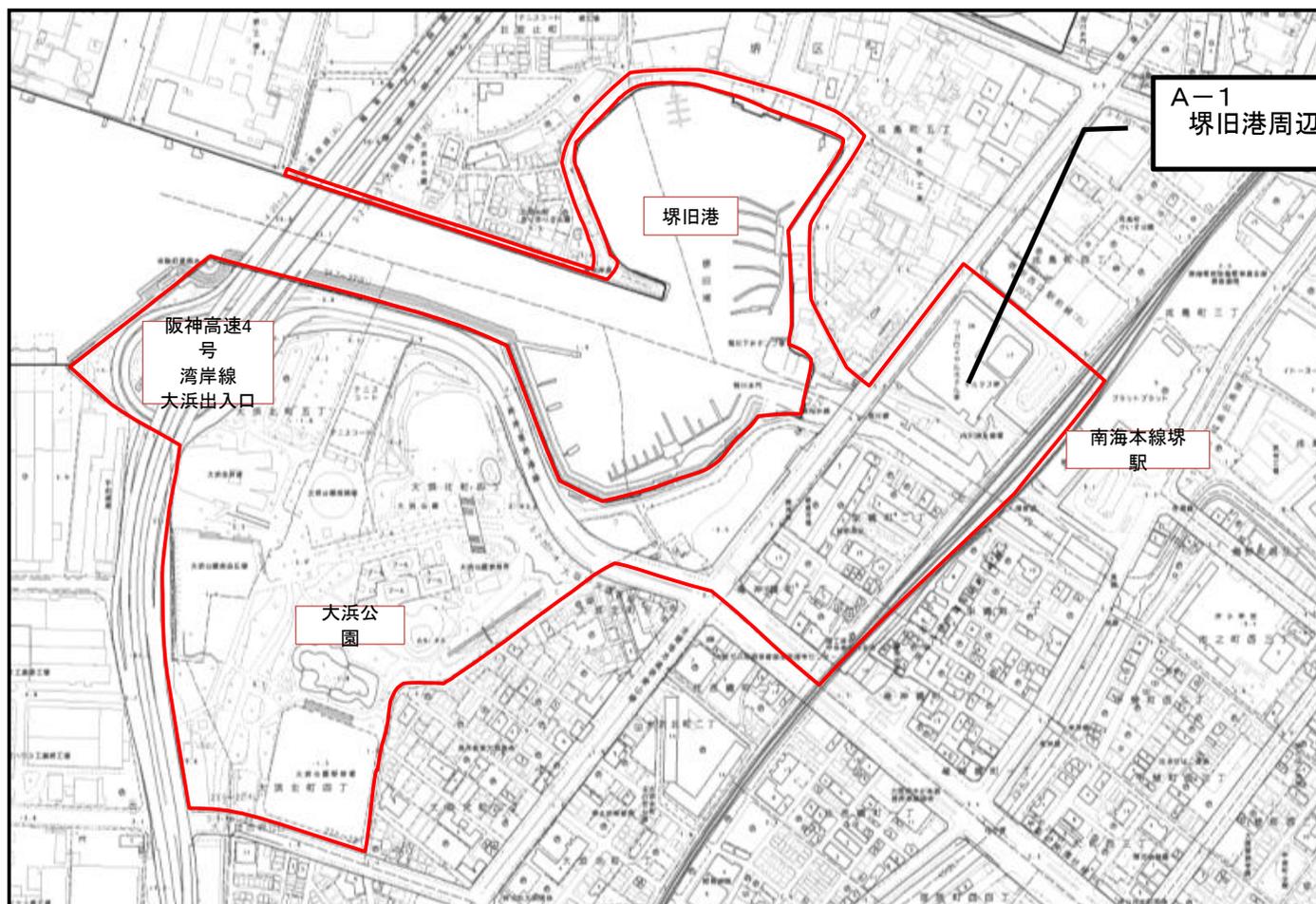
(単位:百万円)

	H30	H31	H32		
配分額 (a)			72		
計画別流用 増△減額 (b)					
交付額 (c=a+b)			72		
前年度からの繰越額 (d)					
支払済額 (e)					
翌年度繰越額 (f)					
うち未契約繰越額 (g)					
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	#DIV/0!	#DIV/0!	0.0%		
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	-				

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

# 参考図面

計画の名称	堺旧港周辺地区における海辺文化・賑わいの再興		
計画の期間	平成30年度 ～ 令和4年度 (5年間)	交付対象	堺市



A-1  
堺旧港周辺地区都市再生整備計画事

# 社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称: 堺旧港周辺地区における海辺文化・賑わいの再興

事業主体名: 堺市

チェック欄

## I. 目標の妥当性

### ①上位計画等との整合性

- |                                                          |   |
|----------------------------------------------------------|---|
| 1)堺市総合計画の方針と適合している。                                      | ○ |
| 2)関連する各種計画との整合性が確保されている。<br>(都市計画マスタープラン、堺 都心のまちづくりプラン等) | ○ |

### ②地域の課題への対応(地域の課題と整備計画の目標の整合性)

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| 1)本市の課題を踏まえた目標となっている。 | ○ |
|-----------------------|---|

## II. 計画の効果・効率性

### ①整備計画の目標と定量的指標の整合性

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 1)整備計画の目標と定量的指標・数値目標の整合性が確保されている。 | ○ |
|-----------------------------------|---|

### ②定量的指標の明瞭性

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1)定量的指標は、計画の目標を達成する上で適切なものとなっている。  | ○ |
| 2)定量的指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。 | ○ |

### ③目標と事業内容の整合性

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1)計画の目標と事業内容の整合性が確保されている。      | ○ |
| 2)定量的指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。 | ○ |

### ④事業の効果(要素事業の相乗効果等)の見込みの妥当性

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 1)十分な事業効果が確認・期待されている。             | ○ |
| 2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。 | ○ |

## III. 計画の実現可能性

### ①円滑な事業執行の環境(事業熟度、住民等の合意形成等を踏まえた事業実施の確実性)

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。         | ○ |
| 2)事業実施について住民等との間で合意が形成されている。 | ○ |

### ②地元の機運(住民、民間等の活動・関連事業との連携等による事業効果発現の確実性)

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| 1)事業推進に向けた地元の機運が醸成されている。 | ○ |
|--------------------------|---|